

葉栗連区 令和2年11月 地域づくり協議会だより 49号

発行日：令和2年11月1日 発行者：葉栗連区地域づくり協議会
一宮市大毛字南出120番地（葉栗出張所内） 電話：28-9001

☆ 葉栗中学校 修学旅行 ☆

葉栗中学校の3年生は、9月3日（木）～5日（土）に修学旅行に行ってきました。場所は、これまでの関東地区ではなく、静岡県・山梨県を中心に見学地を選びました。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で臨時休校となり、不安な気持ちでスタートしました。6月に登校が再開してからも、学習の遅れを取り戻すために7時間授業を行ってきました。また、感染予防のために授業参観や体育祭等、中止になったり、内容を大きく変更したりする行事もあり、たくさんの制約がある生活でした。

この修学旅行も実施すること自体が危ぶまれていましたが、生徒たちの大切な思い出をつくるために目的地を変更し、移動方法もバスに変更し、感染予防対策を徹底しながら実施することを決めました。

「どこに行くかではなく、誰と行くか」をテーマに実施した修学旅行は、3年生の生徒や先生をはじめとした、たくさんの人たちの温かい思いのつまった素晴らしい3日間になりました。



《寄稿：葉栗中学校》

11月・12月のイベント

11月：28日(土)10：00 木曾川堤(サクラ)保全活動（光明寺緑地保全会・ふれあい福祉部会）

12月：4日(金)年末交通安全一斉監視活動（各町内会）

29日(火)・30日(水)年末特別警戒（南北消防分団・各町内会）

☆ 葉栗北小学校「はぐりんピック2020！」☆

今年度の運動会は、新型コロナウイルス感染症対策のため例年とは形を変えて、平日の午前中にスポーツ大会「はぐりんピック」として低学年（1・2年）、中学年（3・4年）、高学年（5・6年）ごとに1時間ずつの分散開催を致しました。

当初予定していた25日（金）が雨天のため28日（月）の開催となりましたが、雲ひとつない秋晴れの下、子どもたちは徒競走と競争遊技の2種目に元気いっぱい参加することができました。

保護者の皆様にはお忙しい中、応援にお越しいただき、ありがとうございました。また、PTA委員やボランティアの方々には、駐輪場の整理や学校周辺の巡回、テントの片づけなどを手伝っていただき、厚くお礼申し上げます。

【新型コロナウイルス感染症対策を考えた競争遊技の種目紹介】



<低学年「めざせ！百発百中！！」>

かごに入らなかった玉は拾えません。投げるチャンスは各自が持って入場した1人2球の玉のみ！玉がかごに入るように、よくねらってがんばりました！



<中学年「令和玉入れ合戦
PON! PON! PON!」>

赤白それぞれ円になり、得点を書いてある箱をめがけて、1人2個の玉を投げ入れます。箱によって点数が違います。どの箱をねらうのか、よく考えて玉を投げました。



<高学年「4人で協力！ボールラン」>

4人で布の隅を持ってボールを運び、そのボールを箱やフラフープに入れます。うまく入るように、4人チームで協力して、がんばりました。



<高学年「代表児童誓いのことば」>



☆ 葉栗連区戦没者慰霊祭 開催 ☆



10月5日(月)午前11時より、葉栗出張所内にある戦没者慰霊碑において、導師に河野栄泉寺住職、宝光寺住職をお迎えし、厳かに執り行われました。

この慰霊祭は、毎年10月に開催されており、今年は新型コロナウイルスの感染防止のため参列者を少なくし、マスク着用、手指消毒液の使用を徹底して開催することになりました。

この「義勇奉公」の慰霊碑は、今から105年前の大正4年11月に、当時の葉栗郡葉栗村の

尚武会、帝国在郷軍人会葉栗村分会が、明治37年～38年の日露戦争の戦死者、戦病死者の供養と従軍者の顕彰を目的に建立されました。

当時は、現在の葉栗小学校の東南にあった葉栗村役場の敷地にありました。

その後、葉栗村は昭和15年に一宮市に編入し、戦後に葉栗出張所が現在地に移転し、後に慰霊碑も出張所入口に移設されました。

昭和52年に慰霊碑の大規模な改良工事が行われたとき、大東亜戦争の英霊198柱の位牌も埋葬されたと思われます。

平成30年7月の葉栗出張所の新築移転に伴い、慰霊碑も現在地に移設となりました。

現在、葉栗連区遺族会は47名の会員で構成されており、2度と戦争のない平和な日本の将来を願い、日々手を合わせています。

☆ 恒例のしめ縄づくり 更屋敷町内会 ☆

しめ縄の由来は、天照大神が天の岩戸から出た際に、再び天の岩戸に入らないようにしめ縄で岩戸を塞いだという日本神話にあるとされています。

更屋敷町内でも30年ほど前から氏子総代6名、年行司15名でしめ縄づくりが執り行われています。今年も6月の田植えから始まり、9月6日に青田刈りをし、さらに1週間干し、9月13日に60束の藁を作りました。藁は柔らかくて加工しやすいもち米を使います。

作業は、60束の藁の根元を木槌でたたき柔らかくして、穂を削り取り袴(枯れた葉)を取り除く人と、藁で縄をなう人とに分担して行います。

大きいしめ縄は、一束の藁を3本に分け、3人がかりで三つ編みのように藁を絞めて作ります。しめ縄は、10月の大祭と正月用に16本作り、秋葉神社、八剣神社に飾られます。

今回は、新しく今井春光さんに指導していただきました。

各町内でもしめ縄づくりが行われております。このような手づくりで行う伝統的な行事を後世に引き継いでいきたいと思っております。



☆ 9月25日(金) 秋の交通安全一斉監視活動実施 ☆



小雨の降る中、登校する児童や通行車両、自転車などへ町会長、老人クラブなど地域の諸団体の協力の下、交通安全の呼びかけをしました。

交通事故は、いつ、どこで起きるかわかりません。

交通事故ゼロの日や一斉監視活動の日だけではなく、常日頃から人も車も交通ルールを守り、安全で安心な

地域になるよう心掛けていきたいと思えます。

次回の一斉監視活動は、12月4日(金)です。



趣味クラブ紹介 一宮狂俳壇連盟

狂俳は、江戸時代初期、伊勢国の俳人 みうらちよら 三浦棹良によって考案され、美濃の俳人 くわはらとうは 桑原東坡に受け継がれ改良されて、美濃を一大狂俳王国に育て上げました。

時を経て、当地方では、丹羽に りよくやわかな 緑屋若菜、一宮に ぶんしょうどうしろう 文正堂史郎、浅野に しょうじゆけんりゆう 松寿軒里遊、浅井に き 亀 さいもりりんべい 斎森林平などの教養高い狂俳人を輩出しました。

一宮狂俳壇連盟は、一宮市芸術文化協会に所属し、毎月第2土曜日の午後1時から葉栗公民館大会議室で月例会を開いています。

(1) 折句、(2) 季題(季語の設定)、(3) 平題(できれば艶物、今は自由句)、(4) 平題(時事問題、社会性のあるもの)、(5) 平題(会話調)を、兼題(その時の題名)に沿って二句ずつ作句します。(五・七か七・五)

9月の月例会は、(1) 折句「ハクロ」、(2) 季題「白露」、(3) 平題「ディスタンス」、(4) 平題「予算」、(5) 平題「遅いですね」で行われました。

折句の「ハクロ」は、五・七・五の頭文字に「ハ」「ク」「ロ」を付けて作句します。

九月の月例会の優秀句

一位 平題 デスタンス
足元表示 見て並ぶ

二位 折句 ハクロ
初嵐 くちし菅笠 六地藏

三位 折句 ハクロ
萩の花 くぐる山門 路地塞ぐ



狂俳は、兼題に沿ってその時感じたこと、時の話題などを思うがままに作句する短詩型庶民文芸です。みなさんも気軽に言葉遊びを楽しんでみませんか?参加をお待ちしています。

興味のある方は、☎78-5002 山本まで連絡ください。